

1年次開講科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
人文社会総論	人文社会科学の世界	4	川合 安. 鹿又 喜隆. 島崎 薫. 西村 直子	1	水 金	5 4	1
人文社会序論	現代日本学入門	2	茂木 謙之介. 伴野 文亮	1	木	3	2
人文社会序論	『三国志』研究入門	2	川合 安	2	火	2	3
人文社会序論	2セメスターからのフ ランス語	2	黒岩 卓	2	火	2	4
人文社会序論	留学のすすめ	2	沼崎 一郎	2	火	2	5
人文社会序論	現代日本学入門	2	茂木 謙之介. 伴野 文亮	2	木	3	6
人文社会序論	中国伝統思想入門	2	齋藤 智寛. 三浦 秀一	2	水	5	7
人文社会序論	宗教学入門	2	木村 敏明	2	木	2	8
英語原書講読入門	文化人類学序論	2	川口 幸大	2	金	4	9
英語原書講読入門	英語文献による 人文社会入門	2	浅岡 善治. 沼崎 一郎. 原 塑. 山田 仁史. 大河内 昌. 川口 幸大. 木山 幸子. 谷山 洋三	2	水 金	3 3	10、11
人文社会序論	哲学・倫理入門前 ——自分で考えるため に	2	直江 清隆	2	金	5	12

科目名：人文社会総論／ General Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時. 前期 金曜日 4 講時

セメスター：1, 単位数：4

担当教員：川合 安. 鹿又 喜隆. 島崎 薫. 西村 直子 (教授、准教授)

講義コード：LB00000, 科目ナンバリング：LHM-OHS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

人文社会科学の世界

2. Course Title (授業題目)：

World of Humanities and Social Sciences
World of Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要：

この授業は、文学部の必修科目であり、文学部の学生は1年次の第1セメスターに必ず履修する必要があります。毎週水曜第5時限と金曜第4時限に、文学部の26すべての専修をそれぞれに代表する教員が各1回講義を担当します。文学部生は、この全授業を受講し、人文社会科学というものを総合的に理解することが望まれます。課題として合計4つのレポートを作成し提出してもらうことになります。

第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず出席してください。受講するうえで不明な点等ありましたら、上に名前を挙げた教員に聞いてください。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course is compulsory for all first-year students of the Faculty of Arts and Letters in the first semester. In this course, all the 26 departments at the Faculty of Arts and Letters will offer a lecture on Wednesday 5th period or Friday 4th period. The students are expected to attend all lectures and explore the field of humanity and social science comprehensively. Four essays are required to complete this course.

All students must attend the first class session since an orientation will be conducted. If you have any concerns, please contact the above faculties.

5. 学習の到達目標：

文学部の全専修の講義を受講し、関心あるテーマについてレポートを作成すること等を通して、人文社会科学に対する総合的、基礎的な思考力を身につけるとともに、専門を学ぶ上での目的意識や関心を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：

Students will acquire comprehensive and fundamental thinking ability and develop their interests and motivation to achieve their goal when they study specialized subjects while attending all lectures and writing up essays on what they are interested in.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 現代日本学の世界/英文学の世界
3. インド学仏教史の世界/東洋史の世界
4. 日本語教育学の世界/心理学の世界
5. 英語学の世界/倫理学の世界
6. 西洋史の世界/文化人類学の世界
7. ドイツ文学の世界/哲学の世界
8. 東洋・日本美術史の世界/二種類の宗教：メディアとコンテンツ (宗教学)
9. フランス文学の世界/美学・西洋美術史の世界
10. 小説分析のレッスン：日本近代文学を読み、考えるために (日本文学) /日本思想史の世界
11. 日本史の世界/言語学の世界
12. 社会学の世界/中国文学の世界
13. 中国思想の世界/考古学の世界
14. 日本語学の世界/その問題、行動科学が解決します
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポートと出席とを総合して評価します (比重の目安は、レポート 60%、出席 40%)。

9. 教科書および参考書：

参考書等については、各授業で随時紹介します。

10. 授業時間外学習：

講義を受ける中で自分が関心を持ったテーマについて、講義中に紹介された文献などを手がかりに事象や事例について自分で調べ、レポートを書く準備をしてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

最後の授業で専修志望予備調査を実施しますので、必ず出席してください。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

semester：1, 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介, 伴野 文亮 (准教授、助教)

講義コード：LB00001, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

現代日本学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Innovative Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：

本講義では現代日本学の前提的な知識を提示することによって、日本学という研究領域への導入を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では種々の方法論を提示する。また東北大学という機関における学的資源を活かした日本学の可能性を考える見地から、学内および大学周辺におけるフィールドワークを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course covers the basic knowege of Inovative Japanese Studies to help students understand the characteristics of Japasese Studies. Japasese Studies is a discipline which think about Japan from various points of view. So in this course, the lecturer introduces some methods.

5. 学習の到達目標：

受講生が、この授業を通して日本学の基礎を理解し、日本学に対してさらに深い興味を持つようになることが到達目標である。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

This course is designed to help students understand Japanese Studies and deepen their interest in Japanese Studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 日本学の歴史

第3回 日本学の方法論① (文芸史)

第4回 日本学の方法論② (社会学)

第5回 日本学の方法論③ (地域史)

第6回 日本学の方法論④ (実証史学)

第7回 日本学の方法論⑤ (メディア論)

第8回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第9回 大学図書館から考える日本学①

第10回 大学図書館から考える日本学②

第11回 「災害アーカイブ」から考える日本学

第12回 大学史料館から考える日本学

第13回 公共博物館から考える日本学

第14回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各自ノートを取ることに。

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB00002, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

『三国志』研究入門

2. Course Title (授業題目)：

SANGUOZHI (Reading)

3. 授業の目的と概要：

東洋史の中でも、特に中国前近代史の場合、漢文で書かれた史料（歴史書や文書など）を読むことが必須である。本講義では、単に従来知られている歴史事実を記憶するのではなく、自ら史料を読んで歴史を探究することを体験してもらうことを目的とする。歴史書『三国志』を素材として、それを読む際に必要な基礎知識を学んだ上で、実際に『三国志』の「魏書」董卓伝を原文で読んでみる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read the Chinese classics as historical materials by reading "Sanguozhi" (三国志).

5. 学習の到達目標：

自らの手で漢和辞典や参考資料を利用しながら、史料を読んで歴史を探究することを体験し、その初歩的方法を体得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

Students will develop the primary ability to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、はじめに：中国史における三国時代
- 2、『三国志』の概要
- 3、『三国志』を読むための基礎知識 (1) 漢文の語法
- 4、『三国志』を読むための基礎知識 (2) 漢籍電子文献の使用法
- 5、『三国志』を読むための基礎知識 (3) 官職や地名の調べ方
- 6、『三国志』「魏書」を読む：董卓、都の兵権を掌握 (この回から発表と討議を行う)
- 7、『三国志』「魏書」を読む：董卓、献帝を擁立
- 8、『三国志』「魏書」を読む：董卓政権の内紛
- 9、『三国志』「魏書」を読む：董卓、長安遷都を強行
- 10、『三国志』「蜀書」を読む：董卓、殺害される
- 11、『三国志』「魏書」を読む：董卓死後の内紛 (1)
- 12、『三国志』「魏書」を読む：董卓死後の内紛 (2)
- 13、『三国志』「魏書」を読む：献帝、長安脱出
- 14、『三国志』「魏書」を読む：曹操、献帝を許に迎える (この回まで、発表と討議)
- 15、おわりに：総括、『三国志』研究のこれから

8. 成績評価方法：

小テスト (1～5 回毎回実施) 20%、討議への参加状況 (6～14 回) 30%、発表内容 50%。

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：渡邊義浩著・三国志学会監修『三国志研究入門』日外アソシエーツ株式会社、2007 年
ほかは、授業で紹介する。

10. 授業時間外学習：

配布資料を読み、授業内容を復習して、発表や討議の準備をしていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：黒岩 卓 (准教授)

講義コード：LB00003, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

2セメスターからのフランス語

2. Course Title (授業題目)：

Elementary French

3. 授業の目的と概要：

ゼロからフランス語の基礎を学びます。つまり、第一セメスターでフランス語を学んでいない、完全な初心者を対象とします。もちろん、フランス語を既に学んだことのある人、あるいは学びつつある人が、復習ややり直しのために参加することも可能です。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

フランス語文法の基礎を一通り学びます。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回 導入および Leçon 1

第二回 Leçon 2

第三回 Leçon 3

第四回 Leçon 4

第五回 Leçon 5

第六回 Leçon 6

第七回 Leçon 7

第八回 Leçon 8

第九回 Leçon 9

第十回 Leçon 10

第十一回 Leçon 11

第十二回 Leçon 12

第十三回 Leçon 13

第十四回 Leçon 14

第十五回 Leçon 15

8. 成績評価方法：

出席点 (100%)。

9. 教科書および参考書：

渡辺降司・須田正樹著『ディアグラム [新訂版] 一運用力のつく仏検対応フランス語文法一』、三修社、2019年。

10. 授業時間外学習：

少ない授業時間でフランス語文法を一通り概観します。かなりの進度で進みますので、授業時間以外の学習が極めて重要になります。予習の有無が成績評価に直結しますので、強い意志をもって授業に参加してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB00004, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

留学のすすめ

2. Course Title (授業題目)：

Let's Study Abroad

3. 授業の目的と概要：

留学の魅力を紹介し、留学への意欲を掻き立てるとともに、留学準備の進め方を指導する。セメスターの前半は、世界各地に留学した体験を持つ文学部生の体験談を聞き、質疑応答を通して、留学の実情を知ってもらうことを中心とする。後半は、留学手続きの進め方、特に東北大学の交換留学制度の使い方を説明し、交換留学の志望動機書と学習・研究計画書の書き方を指導する。また、語学学習についても、アドバイスを提供する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Introduces students to the international exchange programs at Tohoku University. Guest speakers will lecture on their experience of studying abroad. Instructions on how to write application forms will be given.

5. 学習の到達目標：

- (1) 留学に興味を持つ。
- (2) 留学手続きの知識を得る。
- (3) 留学計画を立ててみる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

- (1) Develop interests in studying abroad.
- (2) Acquire knowledge of international exchange programs.
- (3) Start planning to study abroad.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業法の説明
2. 東北大学の交換留学制度の概要
3. 長期留学者の体験談を聞く (1) ヨーロッパ
4. 長期留学者の体験談を聞く (2) ヨーロッパ
5. 長期留学者の体験談を聞く (3) ヨーロッパ
6. 長期留学者の体験談を聞く (4) アメリカ
7. 長期留学者の体験談を聞く (5) アメリカ
8. 長期留学者の体験談を聞く (6) 東南アジア
9. 長期留学者の体験談を聞く (7) 東アジア
10. 長期留学者の体験談を聞く (8) 東アジア
11. 短期留学者の体験談を聞く：SAP
12. 交換留学申請書の書き方 (1) 概要
13. 交換留学申請書の書き方 (2) 志望動機書、学習・研究計画書
14. 交換留学申請書の書き方 (3) 推薦状
15. 総括

なお、長期留学者および短期留学者の体験談のプレゼンテーションの順番および内容は、ゲストの都合により変わることがある。

8. 成績評価方法：

毎回のリアクションペーパー (50%) と、交換留学申請書 (志望動機と学習・研究計画) の作成 (50%) による。出席を重視して成績を評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使わない。参考書は、適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

海外の大学について、ウェブサイトを見るなどして、実際にリサーチする。交換留学申請書の下書を作成する。自分の推薦状を自分で書いてみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

留学に興味のある人はもちろん、留学に興味のない人もぜひ受講して欲しい。実際に留学した経験のある先輩の話聞くことで、留学について具体的なイメージを持つことができるようになるだろう。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介, 伴野 文亮 (准教授、助教)

講義コード：LB00005, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

現代日本学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Innovative Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：

本講義では現代日本学の前提的な知識を提示することによって、日本学という研究領野への導入を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では種々の方法論を提示する。また東北大学という機関における学的資源を活かした日本学の可能性を考える見地から、学内および大学周辺におけるフィールドワークを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course covers the basic knowege of Inovative Japanese Studies to help students understand the characteristics of Japanese Studies. Japanese Studies is a discipline which think about Japan from various points of view. So in this course, the lecturer introduces some methods.

5. 学習の到達目標：

受講生が、この授業を通して日本学の基礎を理解し、日本学に対してさらに深い興味を持つようになることが到達目標である。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

This course is designed to help students understand Japanese Studies and deepen their interest in Japanese Studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 日本学の歴史

第3回 日本学の方法論① (文芸史)

第4回 日本学の方法論② (社会学)

第5回 日本学の方法論③ (地域史)

第6回 日本学の方法論④ (実証史学)

第7回 日本学の方法論⑤ (メディア論)

第8回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第9回 大学図書館から考える日本学①

第10回 大学図書館から考える日本学②

第11回 「災害アーカイブ」から考える日本学

第12回 大学史料館から考える日本学

第13回 公共博物館から考える日本学

第14回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各自ノートを取ることに。

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

semester：2, 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛・三浦 秀一（教授、准教授）

講義コード：LB00006, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

中国伝統思想入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese traditional thought

3. 授業の目的と概要：

中国思想専修の志望者および広く中国の思想や古典に関心のある学生を対象として、中国における伝統思想の諸相を紹介、解説する。授業は導入とまとめを除いて 5 回の講義と 8 回の原典講読から構成され、講義においては、「気」「道」「性」「仁」「理」といった中国思想の基本的な世界観、人間観、実践論に関わる概念を解説、検討する。原典講読では、日本の江戸時代から明治時代にかけての漢学者による漢文や漢文訓読体の文章を読み、漢語・漢文による思惟にじかに触れるとともに、本邦における中国研究の流れにも一定の理解を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides explanations of various aspects in Chinese traditional thought to students majoring in Chinese philosophy or being interested in classical Chinese. In order to come in touch with thinking of classical Chinese and learn about a history of Chinese studies in Japan, this class consists of 5 times lectures and 8 times readings expect for a guidance and a conclusion, in the lectures, lecturers will explain some basic Chinese ideas on the world and human, such as “qi (氣)” “dao(道)” “xing(性)”, in the readings, students will read the works of Japanese scholars written by classical Chinese or Kanbun style(a writing style modeled after a translation of a classical Chinese text into Japanese) .

5. 学習の到達目標：

中国古典思想の基本概念について初歩的な理解を得る。思想・哲学的内容を持った漢文や漢文訓読体の文章が理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

The purpose of this course is to help students acquire primary understanding about basic ideas of Chinese classical thought, and reading skills for the philosophical works written by classical Chinese or Kanbun style.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (三浦、齋藤)
2. 講義①「気」(齋藤)
3. 講読 1 (三浦)
4. 講読 2 (三浦)
5. 講義②「道」(齋藤)
6. 講読 3 (三浦)
7. 講読 4 (三浦)
8. 講義③「性」(三浦)
9. 講読 5 (齋藤)
10. 講読 6 (齋藤)
11. 講義④「仁」(三浦)
12. 講読 7 (齋藤)
13. 講読 8 (齋藤)
14. 講義⑤「理」(三浦)
15. まとめ (三浦)

8. 成績評価方法：

小レポート (60%)、原書講読の予習状況と討論での発言状況 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書は用いず、プリントを配布する。そのほか、参考書を随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

原書講読の週には、辞書、事典類を用いて予習しておくこと。また、参考書を読んで討論やレポートに備えること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

Semester：2, 単位数：2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB00007, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

宗教学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Religious Studies

3. 授業の目的と概要：

本授業では、宗教学の基本的なものの見方と主要なテーマについて、次のような方法で理解することを目指す。具体的には、次のような内容を含む。

1. 宗教学の基本的なものの見方について、教員が簡単な講義を行ったのちに、討論を行う。
2. 宗教に関する新聞記事から、各自（受講生の数によっては班単位）で興味を持った話題を選び、その社会的、学術的背景や意義について調べて発表をする。
3. 活きた宗教に触れる。幾つかの宗教の信者、あるいは宗教者にそれぞれの宗教について語ってもらい、議論をする。また、地域の宗教施設において民衆の祈願に関するフィールドワークを一回行うことも予定されている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to help students understand basic viewpoints and important theme of religious studies through class works as below.

1. Group discussion after shrot lecture on basic viewpoint of religious studies.
2. Group presentation on a topic that each group choose from articles of newspapers.
3. A fieldwork on a religious site and dialogues with some religious persons are planed.

5. 学習の到達目標：

宗教学の基本的な知識と技法を身につけることができる。

現代の宗教をめぐる諸問題について知ることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

Students will gain basic knowledge and skills required in religious studies.

Students will understand religious conditions in modern society.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

イントロダクション

2. 準備作業
3. 講義と討論 1. 宗教とは何だろう
4. 講義と討論 2. 教育と宗教
5. 講義と討論 3. 宗教の社会貢献
6. 新聞発表の準備.
7. 新聞発表 1.
8. 新聞発表 2.
9. 新聞発表 3.
10. 新聞発表 4.
11. 活きた宗教に触れる 1. 神仏への願い（神社調査準備）
12. 活きた宗教に触れる 2. 神仏への願い（神社調査を予定）
13. 活きた宗教に触れる 3. 日本におけるイスラーム（仙台マスジド代表による講演を予定）
14. 活きた宗教に触れる 4. 宗教による社会貢献の新展開（臨床宗教師による講演を予定）
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表、議論への参加状況。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：2, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB00008, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

文化人類学序論

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：

文化人類学とは、主としてフィールドワークを通じて異文化について研究し、そこから相対的な視野と思考力を養おうとする学問である。この授業は文化人類学の入門である。文化人類学の基礎的な知識を学び、フィールドワークの体験を通して、この学問の特徴を知ってもらいたい。

授業は大きく分けて、①文化人類学の考え方についてのレクチャーと討論、②フィールドワーク体験、③民族誌の講読、④レポートの作成の4つから成る。主な内容は、講義を聴き、議論し、課題をこなしてゆき、最終的にレポートを作成することである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

文化人類学がいかなる学問で、どのような考え方と方法のもとに研究を進めていくのかについての基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

7. 授業の内容・方法と進度予定：

イントロダクション：授業の概要

1. イントロダクション

2. 文化人類学の考え方① 家族・親族、社会関係、つながり

3. 文化人類学の考え方② 結婚とは？

4. 文化人類学の考え方③ 男／女を考える：性とジェンダー

5. 文化人類学の考え方④ 世界をどう見るか、何を「信じる」か？：宗教

6. 文化人類学の考え方⑤ 経済を人類学から考える：儲かることはよいことか？

7. 文化人類学の考え方⑥ グローバリゼーション+ローカリゼーション＝？

8. フィールドワークをしてみよう① 非参与観察とインタビュー入門

9. フィールドワークをしてみよう② 公園での非参与観察報告会

10. フィールドワークをしてみよう③ インタビュー報告会

11. 民族誌を読んでみよう①

12. 民族誌を読んでみよう②

13. レポートを構想する

14. レポート構想発表会

15. まとめ：文化人類学を学んで

8. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席・討論参加 [20%]、最終レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

『ようこそ文化人類学へ』川口幸大著、2017、昭和堂

10. 授業時間外学習：

毎週、その回の授業内容に沿った課題を出す。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：英語原書講読入門／ Introduction to Academic Reading in English

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時、後期 金曜日 3 講時

セメスター：2, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治、沼崎 一郎、原 壘、山田 仁史、大河内 昌、川口 幸大、木山 幸子、谷山 洋三（教授、准教授）

講義コード：LB00009-16, **科目ナンバリング：**LHM-OHS202J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

英語文献による人文社会入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Humanities through Reading English Documents

3. 授業の目的と概要：

本授業では、各授業担当者の専門領域に関わる内容の英語文献を講読します。英語原書文献の読解力は二次以降の学習・研究にとって重要であるばかりでなく、文学部卒業生に期待される基礎学力として欠かせません。英語原書文献の正確な読解には、語学的読解力と論旨を正確に把握する思考力が必要となります。加えて、トピックの背景知識や、その他の一般的知識も必要です。したがって、英語辞書等の活用に加えて、語学以外の側面についても自ら調べる姿勢が重要となります。本授業では、専門課程で必要となる「読み方」や「調べ方」を身につけてもらうことを特に重視します。各授業の具体的内容は授業紹介を参照してください。また、授業方法、評価方法等の詳細は、授業開講時に各担当者が指示します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is designed to develop students' skill of reading English texts in humanities. The ability of reading English is required not only in the courses offered in undergraduate and graduate programs, but expected as a fundamental skill of graduates from our school. In reading academic English, you need to have the ability to think logically and critically, as well as the precise knowledge of English grammar. Moreover, because the background knowledge is often required to understand the text, the ability of finding necessary information is very important. In this course, therefore, students are expected to acquire both the skill of reading and of finding information. As for the content of each class, look at the course description. At the first class, teachers will give students detailed information about the text, grading, and how the class will proceed.

5. 学習の到達目標：

- (1) 英語原書文献の読解力が身につく。
- (2) 文献の批判的講読の仕方が身につく。
- (3) 理論的思考力が身につく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

- (1) To develop the skill of reading academic English
- (2) To be able to read texts critically
- (3) To be able to think logically

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) イントロダクション
- 2) 学術英語の読解演習 (1)
- 3) 学術英語の読解演習 (2)
- 4) 学術英語の読解演習 (3)
- 5) 学術英語の読解演習 (4)
- 6) 学術英語の読解演習 (5)
- 7) 学術英語の読解演習 (6)
- 8) 学術英語の読解演習 (7)
- 9) 学術英語の読解演習 (8)
- 10) 学術英語の読解演習 (9)
- 11) 学術英語の読解演習 (10)
- 12) 学術英語の読解演習 (11)
- 13) 学術英語の読解演習 (12)
- 14) 学術英語の読解演習 (13)
- 15) 学術英語の読解演習 (14)

8. 成績評価方法：

各担当教員が授業開始時に指示します。

9. 教科書および参考書：

各担当教員が授業開始時に指示します。

10. 授業時間外学習：

予習段階であらかじめ教材に目をとっておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

1～4 クラスは水曜日 3 校時、5～8 クラスは金曜日 3 校時

英語原書講読入門授業紹介

クラス1 水・3 担当 大河内 昌
近年、学問のグローバル化にともない、日本の文化や言葉の問題に関して英語で発信することが求められています。この授業では、日本語や日本文学の問題を論じた文献を英語で読解します。日本文学や日本語に固有な問題が英語で論じられるのを読むのは新鮮な体験になると思います。 テキスト：プリントを配布します。
クラス2 水・3 担当 木山 幸子
本授業では、高齢者との言語コミュニケーションについて考える文献をともに読み、基礎的な学術英語読解に慣れてもらいたいと思います。おそらく受講生の皆さんがまだ思ってもみない高齢期に言語コミュニケーションのあり方がどのように変わり得るかを考えてみることで、自分とは異なる他者への理解と受容の態度を養う機会としてもらいたいと企図しています。 テキスト：プリントを配布します。
クラス3 水・3 担当 浅岡 善治
「西洋近現代史」に関する英文テキストを読み進めながら、情報調査の方法、討論やプレゼンテーションの作法など、「人文社会科学」の調査研究の基礎について手ほどきをします。また、他の諸学問領域と比較した場合の「歴史学（文献史学）」の方法的特性についても考えます。 テキスト：プリントを配布します。
クラス4 水・3 担当 山田 仁史
世界の人々が、結婚へと至る手段や方法には、どんなものがあるのでしょうか？ 多様なあり方の中に、人間の「宗教」や文化の奥深さや面白さが垣間見られます。人類学者ウェスターマルクの古典『人類婚姻史』の一部を読み進めながら、ヒトとはどんな生き物なのか、考えてゆきましょう。 テキスト：Westermarck, Edward, <i>The History of Human Marriage</i> , 5th ed., rewritten, 3 Vols. London: Macmillan, 1921（必要箇所を配布します）。
クラス5 金・3 担当 沼崎 一郎
ジェンダー多様性に関する文化人類学の入門書をテキストに、アメリカの大学1~2年生向け教科書レベルの英文を「正確に日本語に置き換える」練習を通して、文学部生に求められる英語文献読解に必要な基礎的スキルの習得を目指す。成績評価は、課題の提出（50%）と学期末試験（50%）による。 テキスト：プリントを配布します。
クラス6 金・3 担当 原 塑
この授業では、哲学者、David J. Chalmers が2010年に発表した論文、“The singularity: A philosophical analysis”を読みます。チャルマーズの英語は読みやすいですが、議論の内容を把握するのは簡単ではありません。授業時に一文一文を和訳してもらいますので、しっかり予習をしてきてください。 テキスト：授業開始時にプリントを配布します。
クラス7 金・3 担当 川口 幸大
日本の社会と文化について英語圏の研究者が記した文献を読みます。英語の原書に親しむとともに、日本を相対化して考えてみてください。研究対象としての日本。読み進めるうちに抱くのは、共感でしょうか、違和感でしょうか？ テキスト：授業開始時にプリントを配布します。
クラス8 金・3 担当 谷山 洋三
キリスト教文化圏やその影響を受けた国々には、軍隊、刑務所、学校、医療福祉施設などにチャプレン（日本では臨床宗教師）と呼ばれる宗教者が活動し、日常的な儀式だけでなく心のケアに従事しています。チャプレンの活動内容について書かれたテキストを読み、その活動の特徴について学びます。 テキスト：授業時にプリントを配布します。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

semester：2, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB00017, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：

哲学・倫理入門前——自分で考えるために

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Philosophy

3. 授業の目的と概要：

哲学的な議論・思考にふれて、自らやってみて、なじんでいってもらうことが目的です。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides students with opportunities to experience philosophical discussions, and do philosophy by themselves.

5. 学習の到達目標：

哲学のトピックをめぐって思考し、議論できるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

Students will develop basic skills necessary for thinking and discussing philosophical issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

哲学専修または倫理学専修への進学を考えている文学部 1 年生の方が主な対象です（下の「その他」参照）。

クラス内でのディスカッションが中心です。人前で話すのが苦手な方は、授業外に TA や教員にメールを送るなどの形でディスカッションに参加することも可能です。

授業中に短いプレゼンテーションをするか、小レポートを提出するかしてもらいます。プレゼンやレポートのやりかたやテーマは教員か TA と相談して、追い追い決めていきます。

【以下の予定には変更があり得ます。】

1. ガイダンス

2. トピックを探しながら自由に論じよう (1)

3. トピックを探しながら自由に論じよう (2)

4. トピックを探しながら自由に論じよう (3)

5. トピックを探しながら自由に論じよう (4) 小レポート

6. 知るとは何かについての哲学対話 (1)

7. 知るとは何かについての哲学対話 (2)

8. 知るとは何かについての哲学対話 (3)

9. 知るとは何かについての哲学対話 (4) 小レポート

10. 現代倫理学のトピック (1)

11. 現代倫理学のトピック (2)

12. 現代倫理学のトピック (3)

13. 現代倫理学のトピック (4) 小レポート

14. まとめ (1)

15. まとめ (2)

8. 成績評価方法：

プレゼンテーションまたは小レポート（授業中）：60%、出席およびのパフォーマンス：40%。相互評価を導入することもある。

9. 教科書および参考書：

教科書：直江清隆編『高校倫理の古典で学ぶ 哲学トレーニング 2 ——社会を考える』（岩波書店、2016 年）

（『高校倫理の古典で学ぶ 哲学トレーニング 1 ——人間を理解する』（岩波書店、2016 年）も参考図書に挙げておきます。）

10. 授業時間外学習：

授業中のディスカッションをめぐって考えたり、予告されたテーマについて考えたりし、次回の授業での発言を準備する（または TA や教員にメールする）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：なし

哲学専修・倫理学専修への進学を考えている学生さんはなるべく履修してください。

他学部の学生さんは、履修登録前に、担当教員に相談してください（授業初回などに直接会って話すのでも、電子メールでも）。